

## 山上の図書館

### —写真にみる慶應義塾図書館の昔と今—

おざわ  
小澤ゆかり

(三田メディアセンター)

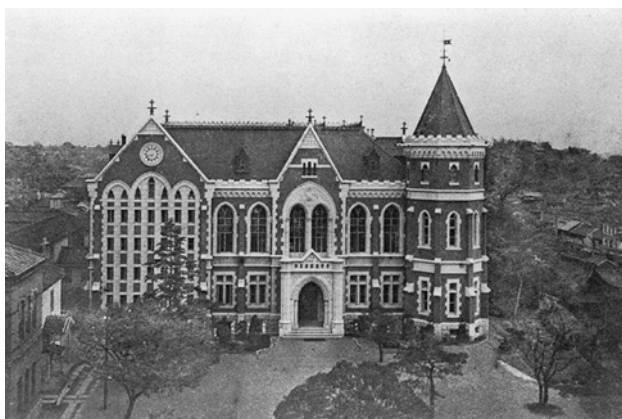
慶應義塾図書館は 2012 年春、開館 100 年記念の年を迎え、今もなお慶應義塾、三田の山のシンボルとして義塾関係者に愛されている。義塾や図書館の記録として残された写真には、折々の図書館の様子が残されている。

“三田の山を久しぶりに訪れると、昔と変わらぬ姿で迎えてくれる”と形容される図書館ではあるが、百年の間には、関東大震災、第 2 次世界大戦による被災や、蔵書の増加、学生数の増加など様々状況の変化があり、外観、内部構造、図書館を取り巻く三

田山上の景観などは大きく変化してきた。

1982 年春には新図書館が開館した。旧図書館は会議室など義塾の施設に改装された部分もあるが、書庫部分には変わらず図書館の蔵書がぎっしりと詰まっている。三田の山上には、その後も大学院校舎、北館、南館など新しい校舎が建設され、旧図書館は校舎の谷間に納まった形となっている。

※掲載写真は主に慶應義塾写真データベースおよび慶應義塾広報フォトライブラリーより引用した。



1912 年（明治 45 年）に竣工した図書館（左上）は、関東大震災後、改修と共に第 2 書庫が増築された。（右下）

戦災で焼失したステンドグラス（左下）は、1974 年（昭和 49 年）に復元された。



〈特集 1〉 慶應義塾図書館開館 100 年



改装された大会議室



閉架書庫の時代、学生達は閲覧室で多くの時間を過ごした。



地上7階地下5階の新図書館は塾監局を挟んで南側に建設された。(左上)

1912年開館当時は、東の門が正門で正面に図書館が迎えてくれた。東門と石畳のスロープの場所には2000年に旧図書館を模した東館が建設された。



新図書館から三田キャンパスを見渡した景観 (2011年) 中央が開館100年を迎えた慶應義塾図書館